

# 古典の日

二十一日 小松



## 松尾芭蕉

卯の花山うのはな・くりからが谷くりからがをこえて、金沢は七月しちがつ中の五日也。爰に大坂おおさかかよふ商人あきんど何処いづこと云いもの有あり。それが旅たび宿しゆくをとにもす。一笑いっしょうと云いものは、此道このちみちにする名の、ほのぐ聞きえて、世よに知人しじんも侍まへしに、去年こぞの冬早ふゆばや世よしたりとて、其兄あに追善おひせんを催もよほすに、

塚つかもうごけ我泣わがな声こゑは秋あきの風かぜ

ある草庵そうあんにいざなはれて

秋あきすゞし手毎てごとにむけや瓜茄子うりなすび

途ち中ちゆう吟ぎん

# 奥の細道

あかくと日は難面なげなも秋あきの風かぜ

小松こまつと云い所ところにて

萩はぎすゝき

此所このところ太田ただの神社じんじゃに詣まつ。真盛まもりが甲かぶと・錦にしきの切きあり。其昔源そのむかし氏うぢに属ませし時とき、義朝よしかね公こうがたまはら給たまはふとかや。げにも平土ひらつちのものにあらず。目め底ぞこより吹返ふきかへしまで、菊きくから艸くさのほりもの金かねをちりばめ、龍頭りゆうづつに鉄形てつがた打うちたり。真盛まもり討死うちころしの後のち、木曾義仲きよちか願状ねんじょうにそへて、此社このじやにこめられ侍まへるよし、樋口ひぐちの次郎じやうが使つかせし事こと共ども、まのあたり縁記えんきに見えたり。

### むぎむやな 甲の下のきりぐす



芭蕉も参詣した多太神社。ここでの感慨が名句を生む(石川県小松市上本折町)

新編日本古典文学全集第71巻・松尾芭蕉集2『紀行・日記・俳文・連句編』(小学館刊)から転載。校注者・井本農一、久富哲雄

芳賀徹さん とたずねる

## おくのほそ道

親不知、市振から滑川、高岡をへて金沢まで、海沿い山越えの道は一四〇里もあつたらう。黒部川、神通川、庄川など富山湾に注ぐ急流も多く、難儀して渡らなければならぬ。しかも七月十三日(陽暦八月二十七日)の市振出立以来、連日快晴「暑甚シ」。その道をひたすら歩いて三日目、十五日の午後にはもう金沢にいたのだから、芭蕉たちは依然驚くべく健脚だった。蕉翁はさすがに少々へたれもしたが、越中から加賀の国に豊かな稲田の実りのなかを行く頃には、遠く青い水見の海を眺めやりながら「わせの香や分け入る石は有磯海」と、徒歩ならではの爽快な感覚の一句を詠んでいた。金沢はなんといつても百二十万石の前田家城下の文化の都市、斎藤一泉をはじめ多くの俳人が芭蕉を歓迎し、彼を囲んでいくたび多くを催してくれた。だが、そのなかでも一番彼の来訪を喜んでくれたはずの俊才で茶商の小杉一笑は、到着後すぐに連絡してみると、前年の十二月、三十六歳で早世したとのこと。芭蕉の驚きは大きく嘆きは深かった。兄ノ松が弟のために催した追善句会での主賓芭蕉の作が「塚もうごけ」との悲傷の句である。

### 芭蕉詩心の大きな振幅

「わが泣く声は秋の風」とは烈しい。慟哭の声がそのまま塚をめぐって吹く秋風の声であり、天地とわれ一如のこの悲嘆にこたえて塚も動けよ、と命令形で直接に故人の霊に訴える。詩人芭蕉の魂は天地山川に對しても人間の運命に對しても、雄々しく激しくまた鋭かった。

一泉の庵で涼しげな養心があれば「手毎にむけや瓜茄子」と打ち興し、再び徒歩の旅上にあれば「あかくと日は難面も秋の風」と吟ずる。ここに並ぶ三句だけでも芭蕉の詩心の振幅の大きさは窺い知れよう。ここに「あかくと」の句については、野末に沈みかける紅い大きな夕日の前に、秋風にそよぐ萩・すつきをあしらった自畫像の絵があつて、この俳人における詩画交響の瀟洒な一コマを伝えてもいる。

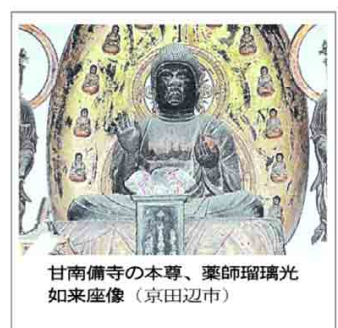
### 先人たちが残した道標

モーツァルト、ハイデルン、ベートーヴェン。クラシック音楽は西洋からやってくる音楽の中にも「古典と私」



広上淳一さん

「いにしえ」より伝えられる楽譜をなぞり、21世紀の世に音楽を届けていきます。これは西洋の伝統芸能の継承、保存のため



甘南備寺の本尊、薬師瑠璃光如来座像(京田辺市)

この老僧は薬師如来の化身とされています。神仏が夢枕に立つという話は古今東西の各地に多く残ります。ただ、ミミズを持ち出したのはユニークであり他に例がありません。他人の人生が、自分の人生よりもばら色だと夢想するのは今も昔も変わりません。今の自分を見直すきっかけを、薬師如来は教えてくれたのでしょうか。この寺も江戸初期ころには無住となり荒れてしまっています。1689年村人達により麓に移され、黄葉宗の甘南備寺として再建されました。(NPO法人・都草 田村 光弘)

### ミミズの夢と甘南備寺

### 文学ウォーク

京田辺市の西、大阪府との境界に甘南備山(221m)があります。ここの頂上に昔、神奈比寺がありました。「今は昔」で始まる今昔物語に、この寺の僧のユニークな話があります。修行中のこの僧は毎日熱心に法華経を唱えていました。しかし夢は都の大きなお寺に行って活躍する事でした。明朝こそは旅立とうと決意し、床に就きます。ところがその夜、夢の中に老僧が現れ、「あなたの前世は、この縁の下に住んでいたミミズだった。法華経を毎日聴いた功德により人間に生まれ変わったのだ。この寺に縁があるから留まるように」と諭します。その後その僧はお寺に住み続け、精進して立派な僧になりました。

古典文学・文化を広めようと、古典の日推進委員会は11月1日を「古典の日」と定めた。

「古典」とは決して「古い」ことを意味するものではなく、音楽・言葉・絵画すべて先人たちが残してくれた道標のことをい、その作品の中には今も生き生きとした作者である「人間」が呼吸し続けているから、全く色褪せないのだから、と思ひます。今「古典」と言われるものは、私には西洋から流れる人たちの心を音楽を通じて探求しながら、この21世紀にその言葉を届けたいと思ひます。

# 親しむ



この春から、もっと便利・スムーズに。  
3月13日(土)  
嵯峨野線が生まれ変わります。

3月13日(土) 嵯峨野線

# 複線化完成

- 朝夕の通勤時間帯に、京都～園部間で快速列車を上下線合わせて9本増発
- 昼間時間帯の普通電車の運転間隔を等間隔に
- 京都～園部間の所要時間を最大15分短縮
- すべての列車が快適な223系・221系車両に



嵯峨野線 複線化記念

硬券タイプ入場券発売!(台紙付)

【発売期間】平成22年3月13日(土)の駅「窓口」の営業開始時間～4月30日(金)まで  
※発売枚数には制限があります。先入れ先売りとさせていただきます。  
※駅「窓口」の営業開始時間は、JR3Dで検索可能(http://www.jr-odekake.net/)をご覧ください。

嵯峨野線 複線化記念

スタンプラリー開催

【実施日】平成22年3月13日(土)・14日(日)  
【実施駅】嵯峨野線 丹波口～園部間の各駅(保津駅・吉富駅を除く)  
スタンプラリー専用チラシのスタンプ欄に、嵯峨野線内の丹波口～八木(保津駅を除く)の各駅に設置されたJR西日本スタンプ22箇所を押し、ゴールの園部駅へお持ちください。各日先着200名様、嵯峨野線複線化記念オリジナルスタンプ型携帯ラッキーをプレゼントします。(お一人様1個限り)  
●園部駅のスタンプ交換時間は午前8時～午後6時です。  
●専用チラシは、嵯峨野線の各駅にて配布予定です。(保津駅・吉富駅を除く)

ほかにも専用チラシを持参の方を対象に、京都駅構内やホテルグランヴィア京都、ジェイアール京都伊勢丹、キューブグルメ街の飲食店舗でのお食事の割引特典もございます。詳しくは嵯峨野線の保津駅・吉富を除く各駅にて配布予定の専用チラシをご確認ください。